

## 令和6年合格者講義（司法）総論

文責 中嶋 涼

### I. はじめに

本講義は、筆者のこれまでの経験が司法試験受験生・予備試験受験生の一助となれることを目的としたものであり、(株) 柏谷メソッド様のご厚意により貴重な機会を設けて頂いたものである。そのため、まずこのような機会を設けて頂いた柏谷メソッド事務局様、柏谷先生には心から感謝申し上げたい。次に本稿は講義内容をまとめたり若干の補足を加えたりしたものである。本講義を聞きながら、又は講義後に一読してもらえたら幸いである。

以下、本講義は筆者の経歴（II.）、受講の経緯（III.）、学習方法（IV. V.）、試験当日・中日の過ごし方（VI.）について述べ、最後に総括する（VII.）。

### II. 経歴

#### 1. 自己紹介

- ・名前：中嶋 涼
- ・年齢：25歳（令和6年11月18日現在）
- ・出身大学：中央大学法学部法律学科（2022年3月卒）
- ・出身法科大学院：東京大学法科大学院既修コース（2024年3月修了）

#### 2. 受験歴

- ・R2年、R3年に予備試験を受験したがいずれも短答落ち
- ・R5年司法試験（在学中受験）→不合格
- ・R6年司法試験→合格

#### 【司法試験】

	憲法	行政法	民法	商法	民訴法	刑法	刑訴法	経済法	得点	順位
R5	C	A	E	E	E	C	D	32.99	653.65	2535
R6	A	B	C	A	C	A	C	27.41	775.88	1551

### III. 受講の経緯

- ・R5年11月に不合格の結果が出た後、既に受講していた友人から柏谷メソッドの

- YouTube の動画の URL が送られてきたのでそれを視聴し、柏谷メソッドの存在を知る
- ・ローは必ず修了しなかったのととりあえずローでの学習に専念
  - ・心境として大学と法科大学院の 6 年間、自分のやり方で学習してきた不合格だったので、R6 年司法試験を受験するにあたっては他人のやり方で挑戦してみようと思った
  - ・R5 年 3 月 8 日から試験までの 4 か月間、応用インプット・アウトプット講座受講

#### IV. 入会以前の学習方法

Q. 大学・法科大学院時代の学習方法

A. 受験勉強というよりは学問的な要素の強い学習をしていた<sup>1</sup>

Q. 具体例は？

- A. ・判例百選、調査官解説、法教・法セ等の論文を読む
- ・基本刑法のような簡明な書籍より詳しく、深い内容の書籍を教材として使用<sup>2</sup>

Q. なぜそのような学習をしていたのか<sup>3</sup>

- A. ・純粋に学問としての法律の世界が学習を通して開けていくのが楽しかったから
- ・学術論文のような形で文献を読んで分析し、自らの考えを文章で表す営みが楽しかったから

Q. その結果、どうなったか

- A. ・基礎的な知識がおろそかになってしまった
- ・答案構成中に問題に関連する様々な論点や見解が頭をよぎり、思考と答案にまとまりがなくなってしまう
  - ・事案に即した結論ではなく、論点が先行する思考の下で答案を書いていた<sup>4</sup>
  - ・採点委員の想定する流れに沿わないような回答になる
  - ・書きたいことが膨大となり、字が汚くなる

---

<sup>1</sup>もちろん、論バを使用した学習もしていた。

<sup>2</sup>例として、高橋則夫『刑法総論〔第 4 版〕』（成文堂、2018 年）、宍戸常寿『憲法 解釈論の応用と展開〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）、勅使川原和彦『読解 民事訴訟法』（有斐閣、2015 年）などが挙げられる。

<sup>3</sup>もっとも、このように法律を楽しんで学習していたことは、筆者にとって学習を継続するモチベーションとなったのは間違いない。また、柏谷メソッドを受講したうえで過去問を解いたり、試験本番で実際に答案を書いたりする際に基礎的な知識のその先を知っていることで採点委員の“地雷”を踏まないという点では有用であったと振り返ってみて感じるところではある。

<sup>4</sup>このような一般法理を思考のスタートに置く思考は裁判官をはじめとする実務家の思考フローではなく、むしろ研究者のそれに近いと考えられる。この点について、千葉勝美『憲法判例と裁判官の視線—その先に見ていた世界』（有斐閣、2019 年）にて同旨のことが述べられている。

→司法試験合格のために必要な能力が培われていなかった

## V. 入会後の学習方法

### 1. それまでの学習から変えた点

昨年の司法試験の結果を踏まえて受講から試験当日までに改善しようと考えた点<sup>5</sup>

- ① 基礎的な知識を確実に押さえる
- ② 採点委員のウケの良い答案の書き方を学ぶ

### 2. 柏谷メソッドの特徴と自分に合っていた点<sup>6</sup>

#### (1) 特徴

- ・論パを暗記することを前提とする表面的な理解や答案作成ではなく、基礎的な知識の本質的理解を志向していること
- ・Studyplus を通じて気軽に質問や悩み事を共有できること
- ・音声を再生できる機器さえあれば学習ができる
- ・メタ的な観点からの受験指導

#### (2) 自分に合っていた点

- ・基礎的な知識が固まるうえに、これまでクリアな答案構成の妨げとなっていた派生的・応用的な論点や見解の記憶が薄れていった
- ・自分で学習方法についてそれほど試行錯誤する必要がなく、提供されたスキームに則って集中して学習することができた
- ・先生に気軽に質問をすることができたので分からないところを解決するための時間と労力を削減できた
- ・アウトプット講座で自分の答案の悪いところを徹底的に指摘してもらえ

### 3. 実際の学習方法

- ・7時半～8時には起床し、3～4時間学習、昼食を含めた昼休憩後、13時～13時半ころから4時間学習、20時～22時は気力があれば学習<sup>78</sup>

---

<sup>5</sup> この改善点の抽出に当たっては、柏谷先生との度重なる面談を通じて行われたものであり、その点についても柏谷先生には深く感謝したい。

<sup>6</sup> 筆者は他の予備校を利用した経験がないので他の予備校との比較という観点から特徴を挙げていないことには留意してほしい。

<sup>7</sup> ここまで学習に専念できたのは、法科大学院後に実家に帰って父母のサポートを受けられたからである。厚いサポートをしてくれた父母を含めた周りの方々には感謝の念が絶えない。

<sup>8</sup> 音声を聞きながら百選を読んだり、短答を解いたりした。前者については柏谷メソッドのコンセプトに鑑みると推奨はできない。

- ・このような1日のスケジュールで週40～65時間学習していた
- ・1～2か月の間、応用インプット講座の音声聞いた後に一年分の過去問を解いて添削指導を受ける
- ・インプット講座で疑問が生じた点やアウトプット講座を聞いて答案の書き方について悩んだ点があれば、その日のうちに質問をする
- ・選択科目は開講されていなかったが、東京大学で経済法を研究している白石忠志先生が授業の予習として動画をYouTubeにアップしており<sup>9</sup>、その動画と白石先生が執筆した書籍<sup>10</sup>を用いて学習していた<sup>11</sup>
- ・このサイクルを2回繰り返して試験当日に至った
- ・短答については特筆して対策したことはない  
∴応用インプット講座で基礎的・本質的な知識を押さえることで十分に対策可能であると考えたから
- ・論文は応用アウトプット講座での指摘されたようにとにかく事案や問から採点委員の想定する答案のフローを読み取り、それに沿うような形での記述を心掛けた
- ・問題文に無駄な記載はないと考えていたので、事案や会議録の一文一文の意味、具体的にはその一文からどのような事実が認定できるのか、どのような評価ができるのかといったように分析しつつ問題文を読んでいた

## VI. 試験当日・中日の過ごし方<sup>12</sup>

### 1. 前日まで

- ・試験前2週間くらいに改めて応用インプット講座を1周していた
- ・試験のための持ち物は筆記用具（鉛筆を忘れずに！<sup>13</sup>）応用インプット・アウトプット講座のデータが入った外付けHDD、タブレットPC、六法、選択科目の教材
- ・仙台受験であったので前日の15時頃にチェックイン
- ・ホテルは朝食付きの場所を選んだ

### 2. 当日

- ・集合時刻が8時半～9時頃であるが、自分は朝に起きても昼頃から頭が冴えてくるような夜型に近い人間なので、逆算して4時に起きていた

---

<sup>9</sup> 白石忠志先生のYouTubeチャンネル (<http://www.youtube.com/@shiraishitadashi1546>)、

<sup>10</sup> 白石忠志『独禁法講義〔第9版〕』（有斐閣、2020年）

<sup>11</sup> なお、筆者も白石先生の経済法授業を取っていた。

<sup>12</sup> 答案作成のフローは応用アウトプット講座において柏谷先生より繰り返し指摘されていることをできる限り実践しただけなので割愛する。

<sup>13</sup> 筆者はR5年の司法試験で鉛筆を持参するのを忘れた。幸運にも試験会場のビルの下にコンビニがあり、そこで買うことが出来たので難を逃れた。

- ・起床後はその日に受ける科目の応用インプット講座の講義後レジュメを見ていた<sup>14</sup>
- ・試験時間中、幸運にも思考や論述を妨げるような事情はなかった
- ・終了後に六法を、机を共用している人と重ねるようにして置いて次の科目が始まるまでその状態を維持しておく必要があり、下に置いた場合に隣の受験生が六法を取るまで少しの間待たなければならないので煩わしく感じる場合は隣の人と交互に置くように決めてもよいかもしれない<sup>15</sup>
- ・休憩時間中は毎回お手洗いにいき、残りの時間は呆けていた  
∴休憩時間中に確認したことに答案が引っ張られる可能性があるし、短い休憩時間のなかで網羅的に確認することは不可能であると考えたため、脳を休めるほうがよいと考えたから
- ・飲み物はコーヒーか水、食事は休憩時間ごとにコンビニで買ったおにぎりを最低 1 個食べていた  
∴眠気覚ましと糖分補給、空腹感を感じたくなかった
- ・その日の受験が終わったら近場の飲食店で夕食をとっていた
- ・ホテルに帰った後は 20 時半くらいまで次の日の科目の確認をし、21 時に就寝

### 3. 中日

- ・起床時間は特に設定しなかった  
∴前日までの疲労をしっかり回復するため<sup>16</sup>
- ・起床後は刑事系と担当の確認
- ・短答は過去に間違えた問題のみ解いていた
- ・就寝は 21 時

## VII. おわりに

以前、柏谷先生との面談で、司法試験の攻略法を知らないだけで既に司法試験に合格できる実力はある旨のお言葉を頂いたが、それを聞いたときに司法試験に一度落ちて無駄であったと感じていたこれまでの努力が少し報われたように感じた。これまでに述べてきた柏谷メソッドのコンセプトは私のように長年勉強していても成果が出なくて苦しんでいる受験生の方には最適であると思う。

最後になるが、司法試験合格に導いてくれた柏谷先生、柏谷メソッドを紹介してくれた友人、そして長年の学習を支えてくれた家族の感謝の言葉で本講義と本稿を締めたい。

---

<sup>14</sup> ここで実施していたのはレジュメに記載されていることの記憶ではなく、記憶の抜けが怪しいところの確認である。

<sup>15</sup> 筆者はその点気になったが些細なことであり、気が小さいこともあって隣の方と決めごとをすることはなかった。

<sup>16</sup> 余談ではあるが筆者は 2 日目終了した後、比較的時間に余裕があるため、疲労回復のためにホテルのマッサージのサービスを受けた。